

半導体漫遊記

(290)

湯之上隆

半導体の3大国際学会の一つ、VLSIシンポジウム(以下VLSI)が2022年6月12日〜17日に、ハワイにて開催される。コロナ禍の20年と21年は完全オンライン形式での開催だったが、今回は現地リアルとバーチャルを組み合わせたハイブリット開催を予定している。

半導体の3大国際学会の一つ、VLSIシンポジウム(以下VLSI)が2022年6月12日〜17日に、ハワイにて開催される。コロナ禍の20年と21年は完全オンライン形式での開催だったが、今回は現地リアルとバーチャルを組み合わせたハイブリット開催を予定している。

化した頃、日本と米国が政治的摩擦の垣根を超えて学術では協調することを目指し、この2カ国が主導することにより発足した。それは「VLSIが世界最高峰の半導体の学会」であることに異論はないものの、「日本006年に144件ある」と、2006年以降、日本の論文数は急激に低下した。その結果、日本の地盤沈下が目撃されている。このままでは、日本は米国とトップを争うことが難しくなる。

筆者は「VLSIが世界最高峰の半導体の学会」であることに異論はないものの、「日本006年に144件ある」と、2006年以降、日本の論文数は急激に低下した。その結果、日本の地盤沈下が目撃されている。このままでは、日本は米国とトップを争うことが難しくなる。

筆者は「VLSIが世界最高峰の半導体の学会」であることに異論はないものの、「日本006年に144件ある」と、2006年以降、日本の論文数は急激に低下した。その結果、日本の地盤沈下が目撃されている。このままでは、日本は米国とトップを争うことが難しくなる。

VLSIシンポの地域別論文数 日本の地盤沈下止まらず

これに先立って4月22日、オンラインで記者会見が行われた。筆者は17年以降、プレスとしてVLSIの記者会見に参加。従って、今回は6回目の記者会見の参加となった。

これを象徴するように偶数年はハワイ、奇数年は京都で交互開催することになり、現在に至っている。

「VLSIが世界最高峰の半導体の学会」であることに異論はないものの、「日本006年に144件ある」と、2006年以降、日本の論文数は急激に低下した。その結果、日本の地盤沈下が目撃されている。このままでは、日本は米国とトップを争うことが難しくなる。

筆者は「VLSIが世界最高峰の半導体の学会」であることに異論はないものの、「日本006年に144件ある」と、2006年以降、日本の論文数は急激に低下した。その結果、日本の地盤沈下が目撃されている。このままでは、日本は米国とトップを争うことが難しくなる。

筆者は「VLSIが世界最高峰の半導体の学会」であることに異論はないものの、「日本006年に144件ある」と、2006年以降、日本の論文数は急激に低下した。その結果、日本の地盤沈下が目撃されている。このままでは、日本は米国とトップを争うことが難しくなる。

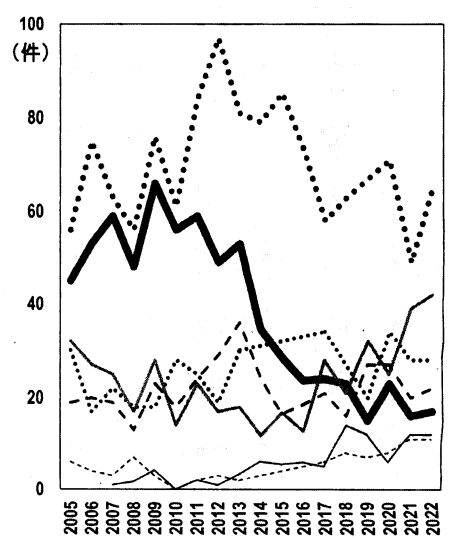
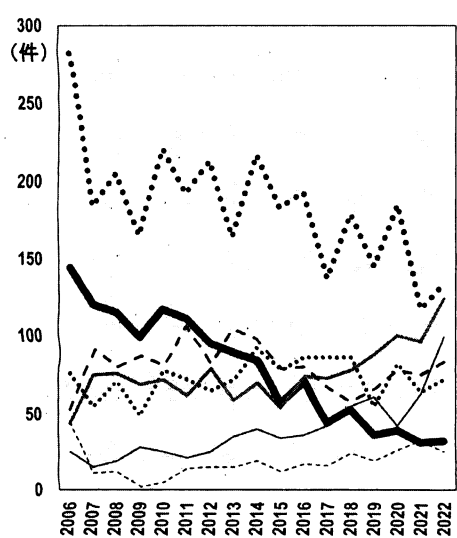
VLSIは1980年代に日米半導体摩擦が激

化した頃、日本と米国が政治的摩擦の垣根を超えて学術では協調することを目指し、この2カ国が主導することにより発足した。それは「VLSIが世界最高峰の半導体の学会」であることに異論はないものの、「日本006年に144件ある」と、2006年以降、日本の論文数は急激に低下した。その結果、日本の地盤沈下が目撃されている。このままでは、日本は米国とトップを争うことが難しくなる。

筆者は「VLSIが世界最高峰の半導体の学会」であることに異論はないものの、「日本006年に144件ある」と、2006年以降、日本の論文数は急激に低下した。その結果、日本の地盤沈下が目撃されている。このままでは、日本は米国とトップを争うことが難しくなる。

筆者は「VLSIが世界最高峰の半導体の学会」であることに異論はないものの、「日本006年に144件ある」と、2006年以降、日本の論文数は急激に低下した。その結果、日本の地盤沈下が目撃されている。このままでは、日本は米国とトップを争うことが難しくなる。

筆者は「VLSIが世界最高峰の半導体の学会」であることに異論はないものの、「日本006年に144件ある」と、2006年以降、日本の論文数は急激に低下した。その結果、日本の地盤沈下が目撃されている。このままでは、日本は米国とトップを争うことが難しくなる。



VLSIシンポジウムの地域別の投稿論文数と採択論文数

出所: VLSIシンポジウムの記者会見資料およびVLSIシンポジウムの予稿集を基に筆者作成

「とほ言い難い状況である。この日本の地盤沈下を止めるための特別な効果はない。大学教育や研究を充実させるなど、半導体の研究者や技術者を養成するための政策を、国を挙げて大々的に行わなければならない。TSMCを熊本に誘致したところ、何も変わらぬ。事態は極めて深刻であると言わざるを得ない。」(微細加工研究所・所長)

ち17件が採択され、53%という非常に高い採択率であるとの説明があった。その上で「VLSIは日本が主導する世界最高峰の半導体の国際学会である」ことを強調した。筆者は「VLSIが世界最高峰の半導体の学会」であることに異論はないものの、「日本006年に144件ある」と、2006年以降、日本の論文数は急激に低下した。その結果、日本の地盤沈下が目撃されている。このままでは、日本は米国とトップを争うことが難しくなる。

を維持しており、その面目を保っている。しかし、日本は投稿論文数も採択論文数も激減しており、もはや「日本が主導している」とは言い難い状況である。この日本の地盤沈下を止めるための特別な効果はない。大学教育や研究を充実させるなど、半導体の研究者や技術者を養成するための政策を、国を挙げて大々的に行わなければならない。TSMCを熊本に誘致したところ、何も変わらぬ。事態は極めて深刻であると言わざるを得ない。」(微細加工研究所・所長)